

## 第18回委員会会議結果概要(案)

開催概要	
日時	平成20年1月25日(金) 18時00分～20時00分
場所	千葉県国際総合水泳場 会議室
参加者数	40名
出席委員	13名(遠藤茂勝、工藤盛徳、倉阪秀史、榊山勉、宮脇勝、及川七之助、澤田洋一、竹川未喜男、三橋福雄、後藤隆、佐藤正芳、増岡洋一、下原慶啓) : 委員長
結果要旨	
<p><b>第17回委員会の開催結果概要</b></p> <p>資料1により確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑なし。</li> </ul> <p>また、報告事項(1)「再生会議の開催状況とH20実施計画への意見」について、事務局から説明があった。</p> <p><b>景観アンケート調査結果の活用</b></p> <p>報告事項(2)「第5回勉強会の開催結果概要」と併せて、資料2により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p>&lt;宮脇委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを行うこと自体が大事で、このような蓄積を重ねていくことは重要である。</li> <li>・“訪れたことがある人”と“訪れたことがない人”とで、意識が若干異なるのは、興味深い。</li> <li>・評価が低い項目は改善する必要がある。</li> <li>・自由意見においては、アンケートの項目にない「その他」意見に注意する必要があり、後背地の整備を考える際、このアンケート結果を参照してほしい。</li> </ul> <p>&lt;遠藤委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バリエーションなどの検討時に、アンケート結果を役立てていくこととしたい。</li> </ul> <p><b>護岸バリエーション検討の進め方</b></p> <p><b>緑化試験等の進め方</b></p> <p>資料3、資料4により事務局から説明があり、質疑応答および意見交換が行われた。</p> <p>[主な意見及び対応]</p> <p>&lt;三橋委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全のことは別だが、拙速に進めない方がいい部分もある。後背地の土地利用との整合性を十分考えた方がよい。</li> </ul>	

<倉阪委員>

- ・再生会議で議論すべきことかもしれないが、市川市のまちづくりとの整合性に加え、三番瀬としての統一感も保っていく必要がある。

<三橋委員>

- ・ラムサール条約の登録地になる可能性があり、そのような観点からも考えておく必要があると思う。

<及川委員>

- ・護岸もできていない、漁港も決まっていない、さらに漁場の再生も進んでいない段階で、ラムサール条約云々というのは、漁業者としては納得できない。

<竹川委員>

- ・三番瀬は、ラムサール登録の条件を十分に満足しているため、三橋委員の考えも考慮する必要があると思う。

<倉阪委員>

- ・ラムサールに指定されると、自然環境学習の施設の整備に関して国から補助金が出る。地域の活性化にもつながると思う。

<竹川委員>

- ・市川市所有地の部分について、護岸検討委員会の方で先に枠を決めてしまうと、自然再生の企画がやりにくくなると思う。
- ・再生事業に関し、国の自然再生事業の制度をうまく利用する設計も可能だと思うので、その辺のこともバリエーションの中に織り込んで検討しておく必要がある。

<後藤委員>

- ・短期的な視点でみたベストのものと、現状では無理かもしれないが制約を取っ払った理想的なものとの2通り用意しておくことを、検討しておかないといけない。
- ・実現化試験計画等検討委員会からもアイデアが出てくるので、それを護岸の中で吸収してみるといった発想で、生物が付きやすいとか、人が触れやすいというものを複合的につくってしまった方がいいと思う。

<工藤委員>

- ・自然再生の場とのすり付け部はまだいじれない。
- ・大事なことが一つ、今でももうできることがある。それは、マザーゾーンをつくっておくことで、まず第一に、マザーゾーンに入れる生き物を決めておかなければいけない。

<後藤委員>

- ・工藤委員の意見はおもしろい。角の部分にさらし砂を入れてみようというのは、ある意味ではそこにどういう生物がついているのかを見てみたいからである。三番瀬には、波が砕けて土砂の中に入り、それで洗われて酸素が入っていく場所がない。

<後藤委員>

- ・海に触れる場合、アプローチの部分が非常に長い。HWL以下は滑ったりする部分もあるので、下りやすいアプローチにしてみる。それから、海の中とその上の部分とを2段階に分けて、アプローチをかけた方がおもしろいと思う。

<遠藤委員>

- ・今は仮断面なのでいろいろなことができる。あくまでも試験的という意味で、成果を見ながら工夫していくことができるのではないかと。緑化についても、試験的に行っていけば結果が見えてくるので、それを進めてはどうかと思う。

<及川委員>

- ・市川市のまちづくりに関し、全体的に考えるのも大事だが、時間が掛かるので待っていたのではしょうがない。市川市と合わせて行うのは確かにすごくいいが、そればかり考えていたのではうまくない。
- ・さらし砂は、護岸検討委員会の方でやるように決まったのか。砂を入れるのは試験だから結構だが、漁港があるので、砂を入れる一番先に1列か2列捨石を設置して砂が留まるようにしてほしい。砂は満潮ラインを越えて入れなければ意味がない。

<遠藤委員>

- ・護岸検討委員会でやるとは決まっていない。
- ・試験的にやってみて、もし何かあればすぐに改善するという前提でやるぐらいの柔軟性がないと、難しいと思う。

<工藤委員>

- ・植え込み時期について、試験では9月に行うこととしているが、本施工では、1月から3月に行うこととしており、整合がとれていない。慌てなくてもいい。

<後藤委員>

- ・植物によって生育の時期は決まっているので、できるものは少し早めに準備していった方がいいと思う。構造も早めに決めていかないといけない。

<工藤委員>

- ・外来種や帰化植物の扱いについて、議論したほうがいい。

<佐藤委員>

- ・進め方のフローを皆で決めていかないと、検討していく上でのたたき台を事務局が作成できない。

<倉阪委員>

- ・専門家を呼んで勉強会をした方がよい。

<遠藤委員>

- ・緑化試験に関して早急に勉強会を開催し、具体的な内容を検討していくこととする。

<宮脇委員>

- ・まちづくり1期工事の公園整備は、どのようなスケジュールで考えているのか。

事務局

今日は市川市がみえていない。その辺の情報は掴んでいない。

### **その他**

- ・ 次回勉強会を2月中旬に、次回委員会を3月中旬に開催する方向で調整中の旨、事務局から説明があった。

### **傍聴者からの意見**

- ・ 護岸バリエーションの工事が、三番瀬再生の目的に寄与するのか、自然環境にどんな影響を与えるのか、そのようなデータも併せて出してほしい。